

体験活動

3. 4年生 そばの栽培・収穫 そば打ち



2年 錦清流小学校2年生との交流学习



守りたい、ふるさとの灯 ～そば作り～ 美川小学校教諭 隅 佳恵

平成27年 1 月1日の中国新聞に、「守りたい、ふるさとの灯」という題で、「東谷さぬきパーク」の皆さんが、収穫したそばの脱穀をされている写真と記事が掲載されていました。「美川小の校区内で、こんなに楽しいことをされている。」と、心躍った私は、さっそく4月から、そば作りに挑戦したいと思いました。担任は3・4年。東谷でのそば作りの話を伝えると、子どもたちも「ぜひ、そば作りをしたい。」と意欲満々。さっそく、そば作りに挑戦することになりました。東谷の農園の一部をお借りし、そばの種まきをしました。成長の様子を観察しようと思い、学校の畑でも種をまきましたが、なぜかほとんど芽を出しませんでした。でも、東谷のそばは、東谷の皆様のお世話により、順調に大きくなりました。かまを使っての刈り取りや脱穀、石臼での粉ひきなどにも挑戦することができました。そして、初めてのそば打ち体験。丁寧に教えていただいたので、とても上手にできました。あまりのおいしさに、子どもたちは、何杯もおかわりをしていました。昨年は、保護者の方も数名参加して、そば打ち体験を行うことができました。今年度は、3・4年の3名が、東谷でそばの種まきや刈り取りをさせていただき、12月19日には、保護者の方数名と、そば打ち体験を実施することができました。地域の皆様のご支援やご協力で、たくさんの体験活動を行うことができます。これらの体験活動が、未来につながる美川町の灯となればと思います。いろいろな場面で、子どもたちや学校をいつも温かく支えてくださる皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。



5. 6年生 森林体験 こんにゃくづくり



こんにゃく作りに関わって思うこと

学校支援ボランティア 三浦美智子

「おばあちゃん。こんにゃくの作り方を教えてくれる?」「八智恵さんと一緒にね。」から始まった。5月になってこんにゃくの芽が伸び始めたので夫が鉢に植えスクールバスの庄司さんに学校まで運んでもらった。

夏、5、6年生からこんにゃくの質問が届いた。三浦八智恵さんと互いに調べることにした。最も難しい質問は、「いつ頃から美川町で栽培されたのか。」であった。図書館や郷土史で調べ中国から平安初期頃仏教と一緒に伝わってきたらしいこと。1780年頃広島県神石郡上野村の九郎右衛門が水戸から種玉を持ち帰り、江戸末期に美川町で栽培されたことが分かった。その他、熱心な児童の皆さんの質問に八智恵さんとお答えした。

その他、こんにゃくにまつわることを二点お話した。その一つは太平洋戦争の時、山口市の女学生が小倉でこんにゃくを使って風船爆弾を作る作業をされたこと。その指導に美川町の方が当たられたこと。他の一つは、昭和30年代からの高度経済成長期に女性が農業を担うようになり、農業改良普及所では、生活改善グループの皆さんにこんにゃく栽培を勧め、加工方法も自己流であったものをミキサーを使って品質を統一し量販できるようにしたこと。

いよいよこんにゃく作りの日、児童の皆さんは、目を輝かせ期待満々だ。私たちが煮ておいたこんにゃくの皮をむき、灰汁水とミキサーにかけ丸めて茹でた。皆さん丸める作業を面白がってされた。

給食で全校児童のみなさんに試食してもらい「美味しい!」との声に嬉しく思いました。全校児童のみなさんに家庭でも試食してもらったことでこの上なく豊かになりました。

最後に児童の皆さんに期待することは、美川町の文化や良いところを誇りにし社会に羽ばたいてほしい、そして、いたわり、他人の痛みを感じることができ優しい人になってほしいと思います。児童の皆さんから頂いた作文を宝とします。先生方ありがとうございました。